

2021年12月28日

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会

会長 十倉 雅和 様
大阪府知事 吉村 洋文 様
大阪市長 松井 一郎 様

公益社団法人 大阪自然環境保全協会
会長 夏原 由博

夢洲の自然環境の保全に関する要望書

1. 大阪の生物多様性の重要なホットスポットである夢洲とその周辺について、万博開催中と終了後をあわせて全般的な自然環境保全を要望します。
2. 万博のレガシーとして夢洲をラムサール湿地に登録し、大阪をSDGs先進都市とするよう要望します。

当協会では、2018年11月16日に「生物多様性のホットスポットである夢洲の自然環境保全に関する要望及び質問書」を提出して以来、コアジサシや湿地の保護を求める要望書を提出してまいりました。しかし、大阪関西万博の環境影響評価準備書を読む限り、現在の自然が維持されるとは考えられません。

会場予定地である夢洲は、人工島ではあるものの「大阪府レッドリスト 2014」によって絶滅危惧種に指定されている種が多く生息し、近隣の南港野鳥園とともに、種の多様性が高い地域として生物多様性ホットスポットのAランクに評価されています。また、「大阪の生物多様性ホットスポット- 多様な生き物たちに会える場所 -」(大阪府環境農林水産部、平成28年)では、夢洲や南港野鳥園の周辺には、貴重な生態系として、干潟・河川汽水域と、代替裸地・草地(埋立地)があり、環境影響評価準備書や当協会の調査では、貴重な生物として、コアジサシ(環境省絶滅危惧Ⅱ類・VU)やシロチドリ(環境省絶滅危惧Ⅱ類・VU)等、猛禽類のチュウヒ(環境省絶滅危惧ⅠB類・EN)やハイイロチュウヒ等が生息しているとされています。

また、当協会の調査によれば、コアジサシとセイタカシギ(環境省絶滅危惧Ⅱ類・VU)ほかの繁殖、ホシハジロ(国際自然保護連合(IUCN)絶滅危惧Ⅱ類・VU)、ツクシガモ(環境省絶滅危惧Ⅱ類・VU)などが確認されています。コアジサシについては、2021年6月に大阪港湾局長が、集団で産卵する場所について繁殖時期の会場整備の土地造成工事を一時中止しています。植物では、塩生湿地に生育するウラギク(環境省準絶滅危惧・NT)や大阪府では絶滅したとされるカワツルモ(大阪府レッドリスト絶滅・EX)が確認されています。

大阪関西万博の開催目的は、「2025大阪・関西万博がめざすもの」では「持続可能な開発

目標（SDGs）達成への貢献」とされ、テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」となっています。基本計画5つの特徴の第1は「海と空を感じられる会場」となっています。これらは、どれも夢洲の鳥類をはじめとする生物多様性の保護を前提としなければ成り立たないものといえます。

大阪関西万博の開催によるレガシーとして、夢洲をラムサール条約の登録湿地にすることを提言します。ホシハジロは2020年度に5,000羽の飛来が確認されており、登録湿地の基準を満たしています。東京2020大会（オリンピック・パラリンピック）では、競技会場と選手村が集まる東京湾の埋め立て地の都立葛西海浜公園の浅海域を2018年にラムサール条約の登録湿地にしています。世界から集まる人たちに、国際的な保護区に接して大会が催されることをアピールしたものです。

大阪府・市では、大阪都市計画局が発足し、夢洲・咲洲地区の計画も立案されると聞いております。自然と人が共生する未来社会を世界にアピールできる計画を市民とともに立案されるよう要望します。

以上

上記について説明させていただきますので、ご担当者の連絡先を下記までご連絡ください。

公益社団法人大阪自然環境保全協会（事務局担当：木村 進）

住所：〒530-0041 大阪市北区天神橋 1-9-13 ハイム天神橋 202 号

E-Mail：office@nature.or.jp

Tel：06-6242-8720（事務所は平日の月・水・金、10:00～17:00 オープン）

Fax：06-6881-8103